

寿会千葉支部 第47回歴史サークル例会&24年度支部日帰りバス旅行 活動報告

2012年11月20日

歴史サークル世話役 西部修三

千葉支部世話役 平木行雄

去る11月12日(月曜日)天気予報の小雨模様も朝方には雨も上がり、歴史サークル会員と支部会員参加者19名を乗せたマイクロバスは、一路館山自動車道を南下、ケーブルカーで鋸山に到着しました。山頂はあいにくの霧、待てど視界は晴れず残念ではありましたが、山上の「日本大仏」を見学している間に雲間から太陽が顔をだし、館山でビールを飲み・海鮮昼食を終えた頃には、雲一つない快晴で気温も22度と汗ばむほどの好天に恵まれ、晴れ男に助けられました。

午後の行程は、休館の「館山市博物館」入館を変更して「崖観音」参拝に替えたところ、初めて訪ねた方が大半で、観音堂から東京湾の眺望は最高と喜んで頂けました。

そのあと「安房自然の村・不老山薬師温泉」でかけ流しお風呂に入って旅の疲れを癒しました。帰路は「道楽園」に立ち寄って南房総の海の幸を旅の土産として買い求め、車中では橋本さんのハーモニカ伴奏で歌う唱歌もお酒の影響か演歌調に、これまた楽しく心に残りました。バスの車窓から夕日に映える富士山も眺められ、終わり良しの日帰りバス旅行となりました。道中準備不手際のお詫びとご容赦を願いご協力に感謝致します。ありがとうございました。

1. 催事主旨

第47回歴史サークルは24年度支部催事と合同の日帰りバス旅行として、南房総館山の「海の幸」と歴史(里見八犬伝)を訪ねる目的で企画しましたが、「館山博物館」があいにく休館日であったことから、「崖観音」参拝に替え、そのあと「安房自然の村」を訪ねました。

「崖観音」は、養老元年・712年 行基が岩肌(イハダ)に十一観世音菩薩を彫刻～その後、慈覚大師建設～江戸承応2年・1653年火災～正徳5年・1715年再建～明治43年大豪雨により土砂崩れ本堂倒壊～大正12年大震災で観音堂倒壊～御堂は大正14年、昭和元年に再建され現在に至っています。普門院 船形山大福寺 真言宗智山派で境内の船形山の中腹に浮かぶ朱塗りの観音堂は「崖の観音」と呼ばれ、地元民や近隣の人達から信心されているところです。東京湾眺望も必見です。



「安房自然の村」の前面には、太平洋と遠く富士山を望み、緑深い山を背にした約10万坪の敷地の中にある「かけ流し温泉」で癒しを、その後園内散策を楽しんで頂きました。

2. 行程

JR千葉駅(9時出発) → (京葉道・館山道) → 鋸山(ロープウエーで山頂～日本大仏参拝) → (館山道) → 昼食(館山の磯料理) → 崖観音(参拝と眺望) → 安房自然の村(入浴&散策) → 道楽園(買い物) → (館山道) → JR千葉駅(18時解散)

3. 集合写真&スナップ



千葉支部日帰りバス旅行・歴史サークル第47回例会合同

鋸山「日本寺」日本一の
大仏さまで

平成24年11月12日(月)

藤井さん・腰痛
の為、ケーブル
駅
で待機しました

後列左から：平木行雄、宇田川修祐、牧田賢二、柴田矩雄、市川 宏、川股賢三、古屋榮三、稲垣ミヨ子、住田勝治、西部修造、小澤敏宣、藤井弘道
前列左から：野田 佑、橋本裕一郎、松田守道、稲垣 巖、白岩仙一、平木七重、六角 学 (敬称略)



・鋸山「百尺観音」も霧に包まれていた



・**東海千五百羅漢**(千葉県指定名勝)

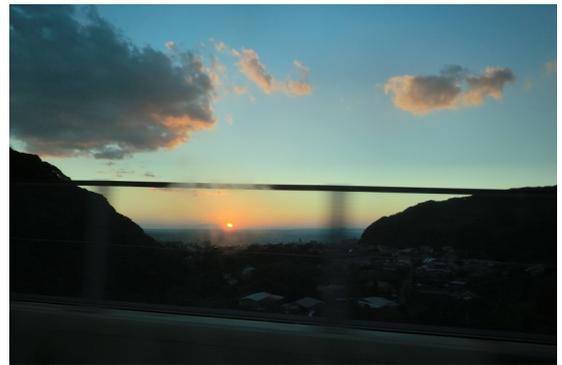
◇1700年代後半、明光名工、大野甚五郎とその門弟により刻まれ、風化侵食された岩に沿って安置されている。ひとつとして同じ顔はなく、人間の喜怒哀楽が表現されている。



・坂東三十三観音霊場の最後の札所「**崖観音**」より東京湾を望む



・帰路の車窓から見た夕日に映える富士山



・ハーモニカ伴奏で唱歌合唱の車中

